

第 68 回日本集団災害医学会セミナーを開催しました（2017/10/29）

テーマ：災害医療、トリアージ（START 法・PAT 法）、病院での多数傷病者受け入れ
場所：東北大学医学部6号館（宮城県仙台市）

2017年10月29日(日)、東北大学医学部6号館において、災害医学研究部門災害医療国際協力学分野 佐々木宏之助教が第68回日本集団災害医学会セミナーを開催しました。日本集団災害医学会セミナーは、災害医療に携わるあらゆる職種を対象に災害医療の基礎知識と技術の習得を目的とするいわば「災害医療に関する入門コース」です。仙台での開催は2016年10月の第62回（佐々木助教開催）に引き続き2年連続3回目です。

当日はあいにくの悪天候にもかかわらず、全国から31名の受講生、20名のインストラクターが集結しました。はじめに災害医療の基礎を講義で学んだ後、トリアージ法（START 法・PAT 法）、病院での多数傷病者受け入れを実技、机上シミュレーションを通して学習しました。トリアージ実技では、うめき声を上げながら横たわる多数の模擬傷病者に対し、経験の浅い受講生が慎重に病状を把握しながらトリアージタグへの記載を行っていました。机上シミュレーションでは、架空の病院レイアウトを題材に、多数傷病者を受け容れるためには本部やトリアージエリアをどこに配置し人員をどのように配分すればよいか、また、災害に備え病院は日頃から何を準備しておけばよいかなど、東日本大震災の経験も踏まえ、熱い討論が交わされました。災害医療国際協力学分野 江川新一教授は昨年受講し、今回はインストラクターとして参加しました。

一般医療従事者を対象とする成人教育型災害医療教育コースは国内にほとんどなく、学会事務局・受講生から東北大学での継続開催を期待されています。災害医療の啓発を進め医療機関の災害対応力向上に寄与できるよう、来年度以降も継続開催を目指します。



トリアージ方法をじっくり学習（左）した後、多数傷病者の一斉トリアージを行う（右）受講生



机上シミュレーションでは多数傷病者受け入れの病院レイアウトについて討論



最後にインストラクター・受講生全員で記念撮影